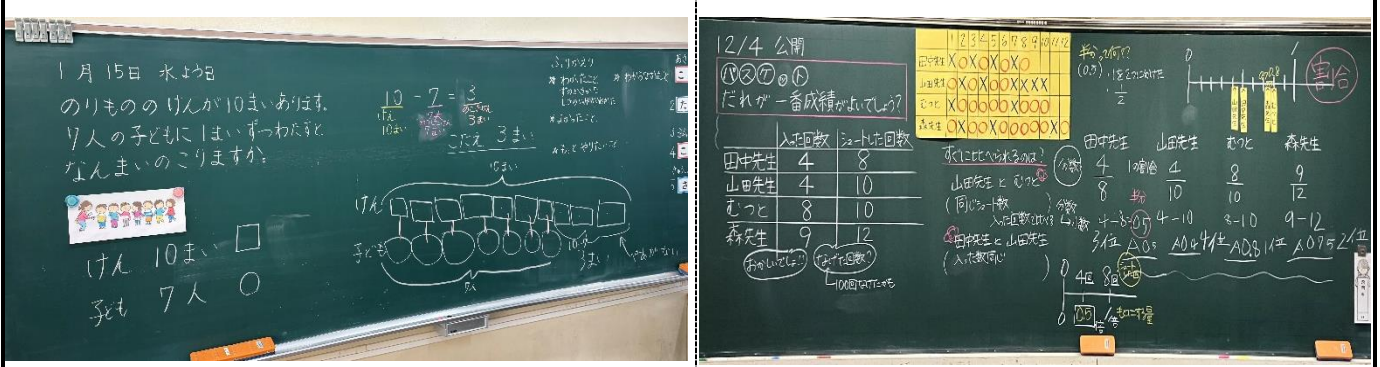


実施日：2024年1月15日

研究テーマ：子どもたちが主体的に考える、算数の授業について研究する。



研究会の達成目標：授業を公開し、授業者・参観者双方の授業力向上に取り組む。

豊能地区3市2町で連携して、公開授業や研修等の機会を創出する。

活動内容

12月：寺内小学校の森先生に5年生の「割合」の導入場面の授業を公開していただいた。

バスケットボールのシュートの場面で、一番成績の良い人が誰かを考えるという課題設定であった。4人の記録が提示され、そこから成績の良い順に並べることをめざした。それぞれ、シュートをした回数と入った回数が違っており、比べにくい数値となっている。その中で、同じ回数シュートをしているからや、同じ回数入っているからなどと数値を根拠に比較していく姿が見られた。

順位づけする段階では、4人の記録を分数で表記したり、分数を小数に変換したりしながら比較しようとする姿が見られた。

授業後の検討会では、割合の学習で大切にしたいことについて全体で確認し共有することができた。4人の記録の中には、入った回数がシュートした回数のちょうど半分となるものもあった。「半分」をキーワードに比較させたいというねらいを持って数値設定をしたり、導入場面で動画教材を用意し、児童の意欲を喚起したりするなど、多くの場面での工夫も共有することができた。

森先生の的確な発問や指示、児童の様子から学級経営のあり方も学ぶことができ、とても学びの多い時間となった。

1月：池田市立呉服小学校の與北先生に1年生の「たしざんとひきざん」の導入場面の授業を公開していただいた。

「乗り物の券が10枚あります。7人の子どもに1枚ずつ渡すと何枚残りますか。」という問題提示で、 $10-7=3$ となる式のそれぞれの数字が何を意味しているかを考える授業展開であった。子どもたちに式の意味を尋ねると、「10枚の券から7人」が引けるのか？という疑問点が出た。ここについて考えを深め、7人の子どもを券に置き換えて考えるのだと気づき、振り返りを行った。

授業後の検討会では、授業のめあての扱い方や、異種の2量を引くということをどのように深めていくかなど、池田市の算数部の先生方と意見を交流することができた。

今後の活動

2月 研究報告会に向けた準備 次年度に向けて

3月 豊中市立学校教育認定研究会報告会

2月定例会では、3月の報告会に向けて今年度の活動を振り返り、次年度の展望や方向性について話し合う。

達成目標に対する「研究成果」と研究成果に対する「課題」について、会員同士でしっかり議論したい。